

議 事 録

会 議 名	第 5 0 回 宇都宮市環境審議会 議事録
開 催 日 時	令和 7 年 6 月 2 日（月） 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 午前 1 1 時 3 0 分
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎 1 4 階 1 4 大会議室
出席委員	石川京樹委員，手塚泉委員，福田智恵委員，成島隆裕委員，北浦さおり委員，横尾昇剛委員（会長），加藤彰委員，高梨弘幸委員，半田光隆委員，篠崎務委員，小牧裕昭委員，増淵弘子委員（副会長），小林紀夫委員，小金澤頼子委員，大森幹夫委員，稲垣広己委員，稲見正雄委員，西口璃空委員
欠席委員	森嶋佳織委員，稲葉全郎委員
事務局 出席者	環境部長，環境部次長，環境部副参事，環境創造課長，カーボンニュートラル推進室長，環境保全課長，廃棄物政策課長，ごみ減量課長，廃棄物施設課長，環境創造課長補佐，環境保全課長補佐，環境創造課職員 4 名，環境保全課職員 2 名，廃棄物政策課 1 名
公開・非公開	公開
一部非公開の理由	－
傍聴者・記者	傍聴者 0 名，記者 0 名
会議概要	1 開会 2 諮問 3 議事 ・「第 4 次宇都宮市環境基本計画の策定」について ・「第 2 次うつのみや生きものつながりプランの策定」について 4 その他 ・事務連絡 5 閉会

発言要旨

会長

それでは議事である「第 4 次宇都宮市環境基本計画の策定」及び「第 2 次うつのみや生きものつながりプランの策定」について，事務局より説明をお願いする。

事務局

－ 資料に基づき説明 －

会長	事務局からの説明が終わったが、委員の皆様からご意見等はあるか。 第4次環境基本計画は2030年をターゲットとした計画であり、今年度は数回、審議会を開催予定である。積極的な施策展開ができるよう、委員の皆様にはご意見をお願いしたい。
委員	第3次環境基本計画によって宇都宮の環境がどう変化したのか。細かい部分はあるかと思うが、全体としてはどのような変化があったかがわかりづらい。
会長	宇都宮の環境の変化について多くの市民が率直に思うことかと思う。表現は難しいかもしれないが、情報を単純化することで強みなどを表現できるといいのではないか。
事務局	環境や立場によって変化の度合いの感じ方はそれぞれかと思うが、今後、市民、事業者を対象に宇都宮市の環境に関するアンケートを実施する予定であり、各事業の進捗状況と併せて率直な意見を伺いたいと考えている。アンケート結果を分析し、宇都宮の個性をうまく掛け合わせながら整理していく予定である。課題等については次の審議会でご意見を伺いたい。
会長	市民、事業者へのアンケート結果を共有しながら、宇都宮の特色、強み、弱みをうまく計画策定に反映してもらいたい。
委員	P8のとおり、栃木県の環境基本計画が宇都宮市の第4次環境基本計画と並行して策定することだが、県との整合性はどのように図っていくのか。
事務局	個別に進める部分もあるが、県の分析等も踏まえ、意見交換しながら策定をしていく予定である。県と足並みをそろえながら進めていく必要がある。
委員	次回以降の審議会でも県の進捗状況等についても情報開示がある、という認識で良いか。
事務局	常に整合が取れるようにしていきたいと考えている。委員の皆様にも適宜お示ししながら進めていきたい。
委員	ネイチャーポジティブ、自然再興などについて、今に始まった話ではないが、年々、見かける生物も減ってきていると感じている。子どもの頃は林ではクワガタ、川ではフナなどを見かけたが、今はめったに見られない。生き物と環境を次の世代につないでいきたいと考えている。 P25に「検討内容」に「本市の地域特性を踏まえた、生きものの生息・生育環境の保全策の検討」と記載があるが、「本市の地域特性」とは例えばどのようなものか。
事務局	令和5・6年度に自然環境基礎調査を実施したところであり、例として鬼怒川の礫河原は全国的にも珍しい環境で、具体的には昆虫のシルビアシジミ（蝶）や、植物のカワラノギクやオキナグサなどが生息している。 一方で、外来種のシナダレスズメガヤの侵略も認められており、そういった貴重な生き物が外来種により侵略されないよう、市の特徴を把握した外来種対策などを検討していきたいと考えている。
委員	地域ごとの違いはあると思うが、特性を踏まえつつ保全に努めてほしい。
会長	市全体としての地域特性もあり、細かな地域特性もある。両面を捉えて、計画の策定をして欲しい。

委員	P 9に「生活の質、幸福度、ウェルビーイング」と記載があるが、どのように捉えて計画に反映するのか。
事務局	国の第6次環境基本計画に記載があり、第4次環境基本計画においてどのように反映するか課題認識を持っている。県の捉え方を踏まえながら、本市においても、どのように活かしていくかを検討し、審議会で諮っていきたいと考えている。
委員	ウェルビーイングは非常に広い概念であり、第4次環境基本計画にどう示していくのか、市民に正しく伝わるよう整理して欲しい。 もう1点、生活の質に関係すると思うが、農薬削減の動きがある。農業政策も第4次環境基本計画に組み込んでもらえると良いと考える。
事務局	農業分野にも同様の基本計画があるが、策定のタイミングが異なっており、現行の農業の計画に組み込むことは難しいと思う。第4次環境基本計画に組み込める部分があれば調整していきたい。
委員	農業分野の取組も後押しできるような第4次環境基本計画になるようお願いしたい。
会長	P 11からP 16において、第3次環境基本計画の進捗が示されており、設定した目標値に対して順調等と評価がされている。一方で、計画策定後に2050年にゼロカーボンを達成する、など大きな目標を設定している。第4次環境基本計画では目標値をどのように設定していくのか。策定してからの5年間で、社会状況が変化したときに、その目標設定が適切でなくなる可能性もある。細かに改定をするのは適切ではないと思うが、社会状況の変化に対し、多少柔軟に対応できると良いと思う。
事務局	現在の第3次環境基本計画は令和2年度に改定し、令和3年度にはゼロカーボンシティ宣言、令和4年度にカーボンニュートラルロードマップ策定を行い、温室効果ガスの排出目標を改定した。環境基本計画の個別計画である地球温暖化対策実行計画については、次回の改定期間を待たず、令和5年度に改定しており、市民、事業者の温室効果ガス排出量の設定を上方修正したところである。個別計画の指標を一部改定した部分もあるため、整合を図りながら第4次環境基本計画を策定していく。
委員	現計画の課題を十分に示してもらえると、審議しやすいと考えている。 P 12の「気候変動への適応策の推進」で、出前講座の実施回数が施策指標になっているが、講座参加者の意識がどのくらい変化したかという情報があると、課題を深掘りするのに役立つと思う。また、P 13の「普及啓発の推進」では、ごみ分別アプリのダウンロード数が指標になっており、指標としては良いと思うが、実際にこの施策の目指すところは、市民がきちんと分別をすることにあると思う。アプリのダウンロードにより家庭から出るごみの分別状況がどうなったかなどの、課題を深掘りするためのデータがあれば審議しやすいと思う。
事務局	現状、データを持ち合わせてはいないが、今後の市民アンケートでのデータ収集など、深掘りできるデータがないか調査していきたいと思う。
委員	昨年から目標値が正確か話をしている部分があり、第4次環境基本計画策定にあたっては検討してほしいと考えている。 P 7の国の考え方に「高い生活の質」とあり、これまでの環境基本計画では謳っていなかったことを盛り込む必要があり、今後どのように捉えていくかが難しいところかと思う。

委員	国や県の動向について情報収集を行い、それぞれ分析、分解をしながら、新しい考え方を盛り込んで欲しい。また、これまでの環境に対する考え方をリセットしないといけない部分も出てくる可能性もある。新しい考え方を具体的な施策に落とし込んで欲しい。
会長	新しい概念を考えるうえでは適切な情報収集が必要。それらを共有しながら、議論を深めていきたいと思う。
事務局	ご指摘のとおりである。適切な情報収集の上、検討を進めていく。
会長	市内に様々なことに積極的に取り組んでいる事業者などがいると思うが、企業や団体の先進的な取組・動きを後押しすることを目的として、情報を引き出すための個別ヒアリングなどがあってもいいのではないかなと思う。大変な作業になるかなと思うので、可能な範囲で検討して欲しい。 また、今年度初回でもあるので、委員の皆様から、順番に宇都宮市の環境についてなど、ご意見をお願いしたい。
委員	宇都宮市の環境は、北関東の中でもバランスの取れた素晴らしいところであると思っている。より美しくしたうえで、環境や生き物を残していけるようにして欲しい。
委員	環境に熱心に取り組んでいる人もいるが、取り組んでいない人へのアピールを頑張って欲しい。未来につながる環境づくりをお願いしたい。
委員	本市は自然環境も都会的なところもある。海外の方からすると、自然環境が残っている場所で暮らせることの幸せや素晴らしさに魅力とを感じる方も多い。それがウェルビーイングにつながるのではないかなと思う。そうした環境を次の世代にも残し、PRして欲しい。人口減少する世の中だが、良い環境が宇都宮の人口増加にもつながると思う。
委員	宇都宮市は素晴らしい自然環境に恵まれた都市だと思う。さらに素晴らしい環境を創出して、未来に引き継いでいけるよう、議論を深めて欲しい。
委員	アンケート調査の内容について、環境について既に取り組んでいることは、やりやすいからやっている。やっていないところはやらない理由がある。なぜやらないのかヒントが得られるような設問を用意すると良いと思う。
委員	地球環境問題に関しては、2050年にカーボンニュートラル、もしくは2030年に温室効果ガス排出量50%削減目標を掲げており、それは産業革命以降の地球の温度変化を1.5℃以下に抑える、という数値目標を設定しているところだが、既に1.5℃を超えているというようなデータもある。今後、国も県も宇都宮市も、CO2をもっと減らすような新たな取り組みを展開していかなければならない時代が来ると思う。独自の施策も含め様々な施策を考えて欲しい。
委員	宇都宮市の環境の優れたところ、例えば、冬季の日照時間が長いという特性から、太陽光発電の導入に適しているなど、良い面をアピールしてもらえれば、市の発展を伸ばしていこうという前向きな計画づくりができるのではと思う。

委員	自然を守るには人手が必要である。地域の中では高齢化が進んでおり、維持するのが難しい部分もある。市民一体となり環境を守り、保持していく必要があると考えているので、市民参加型の計画を作ってってもらえたらと思う。 日々の環境の変化も大きく、秋になっても気温が下がらず、雑草を刈る回数が増えたり、見たことない草が生えていたりする。そうした変化も捉えながら、自然を守るための対策もお願いしたいと思う。
委員	宇都宮市に住んでおり、この審議会において様々な意見を受け、勉強させていただいている部分もある。引き続き宇都宮市の環境について考えていきたい。
委員	県の産業振興センターにおいてカーボンニュートラル関係の補助を行っている。ペロブスカイトの開発や実装、メタンガス削減の補助制度の新設など、新しい技術や制度も出てきており、勉強しながら審議の場に臨みたい。
委員	宇都宮気象台の出前講座等により、市民に気候変動がもたらす影響などについて説明を行ってきた。気候変動は長い期間をかけて徐々に変化をするものだが、大雨の危険や高温による熱中症など短期的にも影響が出てきている。気候変動のもたらす影響について、引き続き出前講座等で市民への周知啓発を徹底していきたい。
委員	幼少期からの生活、家庭、学校におけるもったいないのこころの醸成が必要だと思う。将来の地球について考えることのできる子どもたちを育てていくことが重要と考えている。
委員	気候変動、地球温暖化について危機感を持っている。 個人的には農業に興味があり、農地だけでなく、一般家庭でも除草剤などを使用していることがある。生活環境という観点から農業などの影響についても指標に入れられたら良いのではと思う。
委員	宇都宮市の2割は森林、5割は農地であり、雑草もとても多い。人が草を刈るか除草剤をまくかという基本的な問題をはじめ、土地を維持していくのは非常に難しいのが現実である。それを環境の観点からどのように捉えていくのが重要だと考えている。森林をどのようにしていくのか、また、農地保全の問題などについて考えていきたい。
委員	第4次環境基本計画では攻める政策、一歩先を見据えた政策をお願いしたい。
委員	木材はCO₂を固定化するのに非常に役立つことは広く知られており、宇都宮市の構造物を木材化することでCO₂の固定化を進めていくのも良いのではないかと考えている。栃木県の森林面積は55%であり、全国的にも素晴らしい木材があり、地元で活用していきたいと思っている。
委員	地球温暖化対策は、我慢をしなくてはならない、というイメージがある。温暖化対策をすることで、自分たちの生活がより快適で安心安全になると知ってもらえるように、周知啓発に取り組んでいきたいと考えている。
会長	いろいろな観点から計画策定に係る議論をし、反映していきたいと考えている。引き続きご意見をお願いしたい。 以上で、審議を終了する。